

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那高等学校 学校番号 49

I 自己評価

1	学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。		
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
		<ul style="list-style-type: none"> 生きる知恵をもって社会でリーダーシップを発揮する生徒 自ら問いを立て「探究」する生徒 心に故郷を抱き、世界を見据える生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 質の高い授業と「探究」する学びの提供 社会や自然とつながる多様な学びの場の提供 一人一人が輝き、仲間とつくる感動の場の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力と基本的な生活習慣を身に付けた生徒 志をもって自分を伸ばそうとする生徒 大学進学を目指す生徒
3	評価する領域・分野	◇生徒指導（教育相談）		
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている」について、生徒はA、Bの合計が89.3%（R3 75.0%）と評価を上げている。身だしなみ指導に加え、地域でのマナーについて、地域の方の声を生徒に届ける形でHRに連絡することが多かったことが一つの要因であると思われる。恵那高生として、今後も地域・保護者の期待に応えられるよう、更なるモラルやマナーの向上に向けた啓発活動を継続したい。 「学校は、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」については、E（わからない）が生徒21.0%（R3 12.9%）、保護者45.3%（R3 31.6）と大きく上昇している。いじめに対する活動について、生徒、保護者とも発信できていないことが原因と考えられる。しかし、C、Dの合計は、生徒が2.2%（R3 15.5%）、保護者2.6%（R3 13.6%）と改善されている。これは、アンケートをはじめとした情報から小さなものを見逃さず対応していることが原因と考えられる。いじめの認知件数も多くなっているが、今後も生徒の小さな変化も見逃さないようにして対応していきたい。 「本校では、生徒会活動が活発である。」については、生徒はC、Dの合計が10.2%（R3 25.8%）と大きく改善されている。今年度は、制限はあったものの城陵祭を開催できたことが最大の要因であると考えられる。 		
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇基本的生活習慣の確立と定着、モラル・マナー指導の徹底 ◇生徒の主体性を養うための生徒会活動、部活動及びHR活動の充実 ◇教育相談活動の充実による生徒理解 		
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部（生徒指導・教育相談係・生徒会係）を中心とし、各学年団（正副担任）、各教科会、外部有識者（スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー）との連携強化 		
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	<ul style="list-style-type: none"> (1) 朝の校門指導、モラルマナーアップ週間の設定、全職員による指導 (2) 生徒による自主的な生徒会及びLHR活動 (3) 教育相談週間の設定、職員研修の充実、各係会（生徒指導・教育相談・学年等）の定期的開催、スクールカウンセラーとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校生活における生徒の姿、問題行動の発生状況、地域、保護者からの意見・評価 (2) 学校祭を中心とした生徒会活動や学校独自のLHR活動における生徒の姿と自己評価 (3) 教育相談の実施状況、職員間の課題の情報共有の状況、職員の生徒理解に関わる専門的知識の向上状況 		
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> 朝の校門指導は不定期で実施。モラルマナーアップ週間を6,10,12月に実施（全職員による指導、10月はPTA役員も参加）。 城陵祭（文化の部）に向けたHR活動及び「いじめ」を統一テーマにした生徒が企画運営する 	<ul style="list-style-type: none"> ①職員が連携し生徒の指導に当たり、生徒の姿に於いて改善が見られたか。 ②生徒の自主的かつ活発な活動を支援できたか。 	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	

<p>LHRを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度当初に実施する、生徒・保護者への悩みアンケート。県発出の心のアンケートを毎月実施した。教育相談週間を5,10月に実施。生徒理解（心理テストの分析）に関わる職員研修を各学年で実施し、各学年で支援を必要とする生徒についての理解を深めた。 	<p>③職員が必要な情報を共有し、深い生徒理解に基づいた適切な支援・指導ができたか。</p>	<p>A B C D</p>
<p>12 成果 ・ 課題</p>	<p>○コロナ禍のため防寒対策として、校内での防寒着着用を特別に認めているが、服装に乱れは見られない。全体に落ち着いた学校生活が送れている。</p> <p>▲JRの乗車マナーを含む登下校時の校外でのマナー違反に対し、継続した指導が必要である。</p> <p>問題行動の発生件数は4件（対象生徒4名）（R3：1件、R2：2件、R1：6件）であった。</p> <p>○城陵祭（文化の部）が実施できたことで、生徒が主体的に活動する機会をもつことができ、クラス内の親睦を図るだけでなく、心の成長を促すことができた。</p> <p>▲城陵祭（体育の部）が今年度も実施できなかったことで、伝統の継承が困難である。来年度の実施を見据えて、年度内に方向性を定めたい。</p> <p>○「いじめ」を統一テーマとしたLHRでは、生徒が企画・運営して実施したが、いじめへの理解を深める機会となっただけでなく、いじめの未然防止に繋がる活動となった。</p> <p>○定例の会議（学年会、教育相談部会）や教科担当者会議等において、情報を共有し、スクールカウンセラーとも連携し、対応するように努めた。昨年度は、相談室登校が長期化する生徒がいたが、本年度はそのような生徒は一人もいなかった。</p> <p>▲欠席が多い生徒の割合は昨年度と比較して大きな変化は見られない。</p>	<p>総合評価</p> <p>A B C D</p>
<p>13</p>	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修会を通じて教職員の専門性、指導力を向上させる一方、各分掌が連携し生徒が学校生活に一層積極的に取り組む体制を整え、人間的な成長を促す指導をめざす。 不登校および不登校が心配される生徒に対する支援を充実させるための、教育相談体制の充実。（学業の躓き等の早期発見・個別支援） 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月10日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 城陵祭は、スクールポリシーにある「一人一人が輝き、仲間とつくる感動の場の提供」につながる活動であり、文化の部が実施できたことで、生徒の生き生きとした姿をみることができた。 城陵祭の体育の部は、恵那高校の魅力の一つであり、来年度以降の実施を期待したいが、体育の部を未経験の世代となるため、再開に向けた計画が課題である。 「恵那高生として」という言葉が、生徒の中でどういったイメージがあるのか分からない。スクールポリシーに繋げて具体化できるとよい。
